令和元年度　唐津市立玉島小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標	3　めざす子ども～こんな玉島っ子になろう～
"たくましく　まごころいっぱい しっかり考え　愛なげあう" 子どもの育成 ～豊かでたくましい心と体の 育成と確かな学力の定着 をめざして～	①　心の教育の推進 ②　確かな学力の定着 ③　たくましい体とかづくり ④　地域のよさを活かした 豊かな体験活動	①　「なかよし学習」でしっかり考え、友だちと学び合おう ②　毎日自学・１００冊読書で、智恵を磨こう　【確かな学力】 ③　自分から元気な「あいさつ（仲間のあかし）」「返事（やるきスイッチ）」をしよう ④　玉みがき掃除を通して、「がまん玉」「見つけ玉」「親切玉」 「正直玉」「感謝玉」を磨こう　【豊かな心】 ⑤　隣をあげて、仲間と共に歩き、遊ぼう　【たくましい体】

達成度
A:達成達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

4　目標・評価

①　心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から 学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から 意見や提言など
教育活動	●心の教育	玉みがき掃除・道徳教育・委員会活動の充実	・子ども達のやる気を引き出す。 ・子ども達の実態に応じた授業実践を行う。 ・委員会活動の意義を自覚させ、活動の活性化につなげる。	・自問ノートや道徳ノートの中の子どもの考えに「価値」を見出し、称賛や励ましのコメントを書くことで、自分で判断して行動する力を育てる。また、それらを広報する自問放送を年間11回行う。 ・全職員で「にこにこ集会」の取り組みを年間6回行い、子ども達の人権意識を高める。 ・「学級力アンケート」を年間5回実施し、より良い学級をつくる意識を高める。 ・何のために「その委員会活動をするのかを考えさせ、それぞれの委員会のめあて意識を持たせる。また、その活動をすることによって、自分にどんな力をつけたいのかを考えさせる。	B	・教師が子どもの考えに「価値」を見出したコメントを書いているか、そしてそれらを子どもたちの目に触れるところに出しているかを、それぞれの教師がチェックした。 ・にこにこ集会は計画的に行われ、子どもたちも真剣に考えていた。 ・学級力アンケートを学級経営に有効に活用しているかをそれぞれの教師がチェックしていた。 ・委員会の当番活動は、大体きちんとできていた。	・自問ノートへのコメントの質を高める努力をする。また、自問掃除での子どもの頑張りを、目に見えるところに出す工夫をする。（教室掲示・玄関前掲示板など） ・これからも計画的ににこにこ集会を進める。 ・学級力アンケートを学級経営に有効に活用する。 ・毎月の委員会活動の時間に、めあての確認をし、活動がふれていないかをチェックをする。 ・「委員会カレンダー」を使って、目に見える形で自主的活動を促す。	B	・1年生から6年生までが一緒に学ぶ「にこにこ集会」は、子供たちの価値観が統一されてよい。
	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の確立	・玉島っ子（生活）アンケートを2ヶ月に1回行い、いじめ等の児童の問題の早期発見・早期対応に努める。 ・本校のいじめ防止基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルに従って充実させ、対応の迅速化を行う。 ・被害を受けた児童への適切な支援と、加害児童への適切な指導を行う。	・「玉島っ子（生活）アンケート」を2ヶ月に1回実施し、児童の生活上の問題点を把握・改善し、学校生活が「楽しい・だいたい楽しい」と答える児童を80%以上にする。 ・「いじめ・休罰アンケート」を無記名で児童・保護者を対象に年1回実施し、事実に応じて関連取りや状況把握を行い、対策委員会を開催し、早期対応・早期解決を図る。 ・いじめの認知・覚知に対する研修と共通理解を夏季休業中までに図るとともに、早期発見・早期対応ができる校内体制の整備と迅速な対応、関係機関との連絡支援体制の充実を図る。	B	・玉島っ子アンケートと聞き取りから情報を収集できたので、児童理解に役立った。学校生活が「楽しい・だいたい楽しい」と答える児童は90パーセント以上であった。 ・「いじめ・休罰アンケート」よりいじめ事案が分かった。早期発見・早期対応に努めたので、いじめ事案が大事になることはなかった。職員が共通理解を図り、組織的に対応できたからだと考える。今後も児童観察をしっかり続けていきたい。 ・にこにこ集会（全校道徳）を行うことで、全校みんなで「考え、議論する道徳」が実践できた。今後も充実した道徳教育に力を入れていきたい。 ・まだ「児童間のトラブルやいじめがある」と答えた保護者（3.9%）や児童（10%）がいるので、今後も引き続き、友達の良い所見付けや人権意識を高めていき、自他ともに認めあう、思いやりのある児童を育てていきたい。	・自問掃除での子どもの頑張りを、目に見えるところに出す工夫をする。（教室掲示・玄関前掲示板など） ・これからも計画的ににこにこ集会を進める。 ・学級力アンケートを学級経営に有効に活用する。 ・毎月の委員会活動の時間に、めあての確認をし、活動がふれていないかをチェックをする。 ・「委員会カレンダー」を使って、目に見える形で自主的活動を促す。	B	・学校でにもないということはないはずなので、問題を抱えながらも早期に的確に対応していくことがこれからも大切である。学校として、いじめの問題への早期対応ができている。

②　確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	意見や提言など
教育活動	●学力の向上	学習内容の定着と活用力の向上	・児童が自分の考えをもち、相手に分かるように伝え、学び合うための支援の在り方を探る。 ・4～6年は、12月実施の県テストで「おおむね達成」プラス0.1ポイント目指す。 ・1～3年は、標準学力調査の結果で市平均を目指す。 ・PDCAサイクルを基に、児童の実態に応じた授業改善を図る。 ・読書をする児童を増やす。	・単元を見通した学習計画の立案と毎時間のめあての設定、及び、まとめ、振り返りの充実を図る。 ・「な・か・よ・し」学習を全教科に広げ、「主体的」「対話的」「深い学び」になるよう授業改善を行う。 ・自分の考えを伝える力が不十分なので、授業の中にグループやペアで互いの考えを伝え合う学びの場を設定し、説明する力を伸ばす。 ・「自学ノート」への取り組みを充実させ、年3回自学ノートの公開を行う。 ・「朝の読書」や週1回の図書の時間を充実させ、年間「読書100冊」を達成する児童を80%以上にする。	B	・全国調査、県調査ともに少しずつ学力も向上してきている。来年度も、アクションプランに沿った授業を行うことで、学校全体の学力向上を目指す。 ・10月中旬より、12月調査に向けて基礎・基本の問題や、思考を要する問題を定期的に行い、学力の向上が図れた。 ・12月調査において、校内研究を行っている算数科の数値の伸びが、他教科に比べあまり高くなかったので、引き続き算数科についての研究を行うことで学力の向上を目指す。 ・夏季休業中に学力調査の分析を行い、学力において児童に足りない部分を共通理解し、2学期以降の取組に生かすことができた。 ・「学び合い」については、自分の考えを整理しないで参加する児童もいるので、時間を十分確保し自分の言葉で説明できるよう言語活動の充実を図り、書くことができる児童が増えた。 ・図書館祭りや、読書ビンゴなどの取り組みを行い、読書意欲の向上を目指した結果、「読書100冊」90%以上を達成できる読書量に到達した。	・算数を中心に研究を行っているが、他教科への取り組みを校内研究の中で取り上げ学校全体に広げていく。 ・グループワークの話し合い活動の充実を図るために、話し合いの拠点や思考ツールについての研究を深める。 ・手作り宿題についても提案をしていき、既習事項や系統性を持たせた内容を解かせることで、毎日の授業につなげていく。 ・読書量にだけ目をむけるのではなく、読書の質を高めたり、学年に応じた本を選ぶ力を育成するような取り組みを模索する。 ・来年度も思考力（比較・関係づけ・類推して考える等）を高める取組や、文章を把握・理解する取組を続ける。	B	・グループワークに力を入れてあるが、分からない子が分かる子の意見になびいて終わるのではいけない。だから、発表者を毎回変えたりして、全員の考えが高まるグループワークでなければならない。
特定課題	○小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的な生活習慣、学習習慣の育成	・あいさつ、ことばづかい、返事、時間励行を定着させる。 ・先生や友だちの話をよく聞く態度を定着させる。 ・学習の準備、宿題の定着率を90%以上にする。	①姿勢を正す（立腰） ②相手を見て、元気のよいあいさつや返事 ③始まりの時間を守る ④相手の話が終わるまで話さない　を重点目標とし、全校朝会や学級などのあらゆる機会に全職員で指導する。 ・9年間を見通した「家庭学習のしおり」を配布し、保護者と連携して定着を図る。	B	・①立腰の挨拶では、意識して正すことができるようになってきた。 ②担任以外の職員や外部の人に対して、すすんで挨拶できる児童が少ない。 ③残り時間を可視化できるタイマーを使って、意識付けを図り、始まりの時刻を守れる児童を増加したが、まだ不十分である。 ④途中で質問をしてくる児童が数名いたため、話す内容を予告し、最後に質疑の時間を設けたことで、話を最後まで聞くことができる児童が増えた。	②自分意識を持つために、教師側も相手の名前を呼んで挨拶をして習慣づけていく。 ③タイマーでの視覚的な補助とともに、数分前に声掛けを行う。	B	・あいさつは、自分の知っている人にはできているが、知らない人にはなかなかできにくいものだ。恥ずかしがり屋が多いのか、複数でいるときは元気なあいさつができているようだ。 ・仲良く大きな声で話していれば、楽しく生活できているということではないだろうか。

③　たくましい体と心づくり

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	意見や提言など
教育活動	●健康・体力づくり	運動習慣の改善や定着化 望ましい生活習慣の定着	・外遊びのすきな児童を80%以上にする。 ・朝食の中身の充実や、給食の完食を目指す。 ・徒歩通学する児童を80%以上にする。	・これまでの本校の伝統を継承・発展させるとともに、相撲大会や持久走大会に全校で主体的に取り組めるように工夫する。 ・スポーツチャレンジの取り組みや、朝の時間や昼休みを利用した体育委員や上級生主体の共遊活動等を通して体力づくりに取り組む。 ・新の登校指導を通して、安易な車での送迎を減らし、保護者に対し理解と協力を求める。 ・毎朝の健康観察や生活チェック表などを活用して児童の意識を高め、家庭と連携した食育指導に取り組む。	A	・それぞれの大会については、計画的に進めた。 ・よく体を動かして遊び、体力作りに取り組んでいた。 ・安易な車での送迎はかなり減ってきたが、雨天時に増える傾向がある。 ・保健だよりや給食だよりを通して、児童・保護者の食育意識は高まってきた。	・それぞれの大会については、工夫して取り組む。 ・外遊びの奨励や、マラソンタイムの取り組みを進める。 ・安易な車での送迎を減らし、校門から離れた場所で降りるよう奨励する。 ・保健だよりや給食だよりで、食事の内容についての意識を高める。	A	・教室が空になるほど外遊びに出ているのは良い。人数も少ないので全員が出ないと遊びにくいというのもあるかも。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向け努力する気持ちがあると答える児童70%以上。 ・授業において「振り返り」を実施し、「わかった」「できた」と評価する児童70%以上。 ・郷土について学ぶ授業や体験活動を年１回行う。	・学校行事や授業を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業において「振り返り」の時間を設ける。 ・キャリア教育の視点を取り入れた年間計画を策定する。 ・地域の教育資源や人材等を活用した授業を実施する。	B	・個人の目標については、学期始めに学習面や生活面の目標を立てているが、個人的な夢についての取り扱いは6年生だけである。 ・単元の課題設定や学習計画を単元の導入で行うことで、目標をもって学習に臨むことができつつある。 ・多くの授業において「振り返り」の時間を設けている。 ・キャリア教育の視点を取り入れた年間計画を策定できてきていない。 ・地域の教育資源や人材を活用した授業を各学年において実施しており、地域の大人を通して自分の未来を想像することができている。 ・良いことを進んでしようとしたり、学校行事や学級活動に意欲的に取り組む様子が多くみられた。	・道徳や総合的な学習の時間の年間計画に、教材を通して自己を見つめる学習を設定する。 ・「振り返り」と「修正」「再設定」をする。 ・キャリア教育について校内研修を行う。	B	・6年生は、もっと地元の歴史を学ぶべきだ。谷口古墳の学習で終わりではなく、城山に登って地域を見渡せば、もっと学ぶべきことが見つかるはずである。例えば、藤進寺氏が玉島に攻めてきたことや草野氏が玉島を治めていたことなど…。高祖さんや公民館に聞けばもっと分かるはずである。

④　地域のよさを活かした豊かな体験活動

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	意見や提言など
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者・地域との連携、 学校の危機管理と情報公開の推進	・地域の人材を活用した小小・小中連携教育を推進する。 ・年２回の学校公開日への来校者の参加人数の増加をめざす。（保護者の90%以上、地域関係者の年間来校者のべ１５０名以上） ・保護者とともに、家庭教育の推進を図る。	・授業参観では、学級通信等を通して、事前に学習内容を保護者に伝える。 ・学校公開日には、地域にもチラシを配付して、積極的に参加を促す。 ・「玉島小外部人材活用表」「いきいき学ぶからつっ子事業」を使って、生活科や総合的な学習の時間を活用し地域学習「玉島学」の取組と充実を図る。 ・家庭学習ノートへの親のチェックが毎日入るノート90%以上を目指す。 ・「家読リレー」ができた児童90%以上を目指す。	A	・地域の人材を活用した学校行事や授業を多く実施してきたので、地域の方々を身近に感じたり、地域への関心も深まってきた。特に、校区民運動会に向けて、区長さんをはじめ、地域の方と協働して運動会を開催できたのは評価できると考える。 ・6月の唐津市教育の日には、ほぼ100パーセントの保護者の参加があった。父親の参観も増え、学校教育に対する父親の関心も高まりつつあると感じた。 ・学校行事への保護者様の参加が多く、学校教育活動に対する保護者の関心は高いと感じる。地域人材を活用した授業スタイルも定着してきた。アンケートの集計結果より、保護者・児童・教職員共に、地域の方と触れ合っていると感じている。 ・保護者に家庭学習の手引きや自学ノートのすすめを配布し、家庭学習の大切さ啓発した。 ・家庭学習ノートへの親のチェックが毎日入るノート90%以上を達成できなかった。（80%） ・「家読リレー」ができた児童90%以上を達成できた。（100%）	・地域人材を活用した「玉島学」や学校行事を企画し、学校または各学年で計画・実施をしていくことで、地域との連携を深めルーム。 ・10月の玉小学習フェスタでは、保護者の参観はもちろん、地域の方々にも多数来ていただけるよう、情報の発信に努めていく。 ・地域の方への情報発信の良い手段を探す。	A	・保護者や来賓は学校によく来るが、学校に子供が通っていない地域の人が来るのは、運動会くらい。いろんな行事に来てもらうには、子供の手作り所スターをあちこちに張るのが有効だ。色を付けて目立つようにすると良い。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・行事や行事内容の精選を行い、教材研究や子どもと向き合う時間をつくる。 ・職員の負担感を減らすため、一人で仕事を抱え込むことがないようにする。 ・時間外勤務時間を昨年より５%減らす。	・提案文書の最初に児童に「育てたい力」を明記し、目標をはっきりさせて提案することで、一つ一つの行事や行事内容の精選を行う。 ・職員会議の中に業務改善の項目をつくり、毎月１回は学校の業務について見つめ直し、共通理解を図る。 ・校務分掌のプロジェクト化を進め、チームで当たることで、個人に負担がかからないようにする。 ・定時退勤推進日は、勤務終了後１時間、平日は18:30施錠とし、時間外勤務時間を昨年より５%減らす。	B	・「児童に育てたい力」が明記された提案文書がほとんどになった。 ・毎月１回は職員会議の中で前月の行事や業務を見直し、改善を図ることができた。職員の意識の向上と共通理解につながった。 ・校務分掌のプロジェクト化は、チームで仕事にあたるため、個人の仕事量が多くなり、多忙化につながるため、無理には進めなかった。 ・全体の職員の退勤時刻は、昨年度より早くなった。しかし、時間外勤務時間を昨年度より5%減らすという目標は達成できなかった。	・行事の精選を進め、それに合わせて校務のスリム化を行う。 ・時間外勤務時間がガイドラインの月45時間以内に全員がおさまるようにするために、朝は、7:10以降の開錠、定時退勤推進日は17:00、平日は18:00までの施錠を目指す。	B	・今日の「ありがとう集会」も昨年度2時間だったものを今年度は1時間にしてあって良い。

⑤　本年度のまとめ　・　来年度の取組

・今年度の学校経営基本方針である「つながりを大切に～児童と児童、教師と児童、教師と教師、教師と保護者、学校と地域」をもとに、4つの重点目標（①心の教育の推進、②確かな学力の定着、③たくましい体づくり、④地域のよさを生かした豊かな体験活動）について、児童・保護者・地域の協力を得て、取り組むことができた。
・心の教育では、「玉を磨く」をキーワードに、自問掃除の取り組みを通して、児童が自主的に考え、行動し実践する（玉を磨く）力を育むことができた。毎日続けることによって、進んで取り組む態度、落ち着いた学習・生活態度がみられた。また、いじめの問題への取組では、チームで素早い対応がとれ、大事に至ることはなかった。「伸びっこ研」による職員の共通理解と統一した指導、教育相談の手法による個別支援にも取り組んできた。全校で行う人権集会「にこにこ集会」でも、道徳の授業と組み合わせることにより、全校共通の上、発達段階に応じた心を育てる取組ができた。
・確かな学力では、学習進程「なかよし」や唐津市学力向上アクションプランの徹底、校内研究での授業改善やワークシートの工夫など、教職員の資質向上を図りながら、児童の学力向上を目指すことができた。来年度は、①児童と一緒に行う「単元計画づくり」、②グループワークの「内容の充実」を図る、を中心に実践を進め、「授業が楽しい、○○の力が伸びた。」と児童自身が実感できる授業を目指して更に取り組んでいく。
・たくましい体づくりでは、PTAを中心に相撲の練習に取り組んだり、地域と一緒になって校区民学校合同運動会に取り組むことができた。児童は、休み時間は教室が空になるほど外遊びをし、学年の枠を超えて年間を通して体を動かすことができている。志を高める教育では、地域の大人と触れ合う機会が比較的に多く、祖父母や親、大学生や高校生などを通して、自分自身の将来の姿を考えやすい環境にある。キャリア教育の視点を持って指導していくことで自己肯定感を更に高めていきたい。

・豊かな体験活動では、豊かな自然と歴史環境に恵まれた利点を生かして、特別非常勤講師によるあかんが学習や平づくり、福祉体験や郷土の歴史学習などに取り組むことができた。また、小中・小小連携のサークルクラブ活動での児童・生徒のつながりだけでなく、PTAや地域の方々の支援と協力を得て児童の心身両面での育成に資することができた。今年度新しくなった生活科・総合的な学習の時間の「玉島学・唐津学」のカリキュラム内容の改良を図り、郷土人材バンクに登録していただいた方々の再確認と6年間を見通した学習内容を目指し、充実した地域連携教育にしていきたい。